

北海道駒ヶ岳

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2020年7月～2021年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2020年7月～2021年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口のごく弱い噴気が時折観測されました。山麓に設置した監視カメラでは噴気は観測されませんでした。

2020年10月27日に実施した現地調査では、昭和4年火口内のごく弱い噴気が認められましたが、前回（2019年5月22日）と比べて噴気活動には特段の変化は認められず、また、赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

2021年1月25日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、昭和4年火口内のごく弱い噴気が確認された以外は、状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発人防災科学技術研究所、北海道、森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

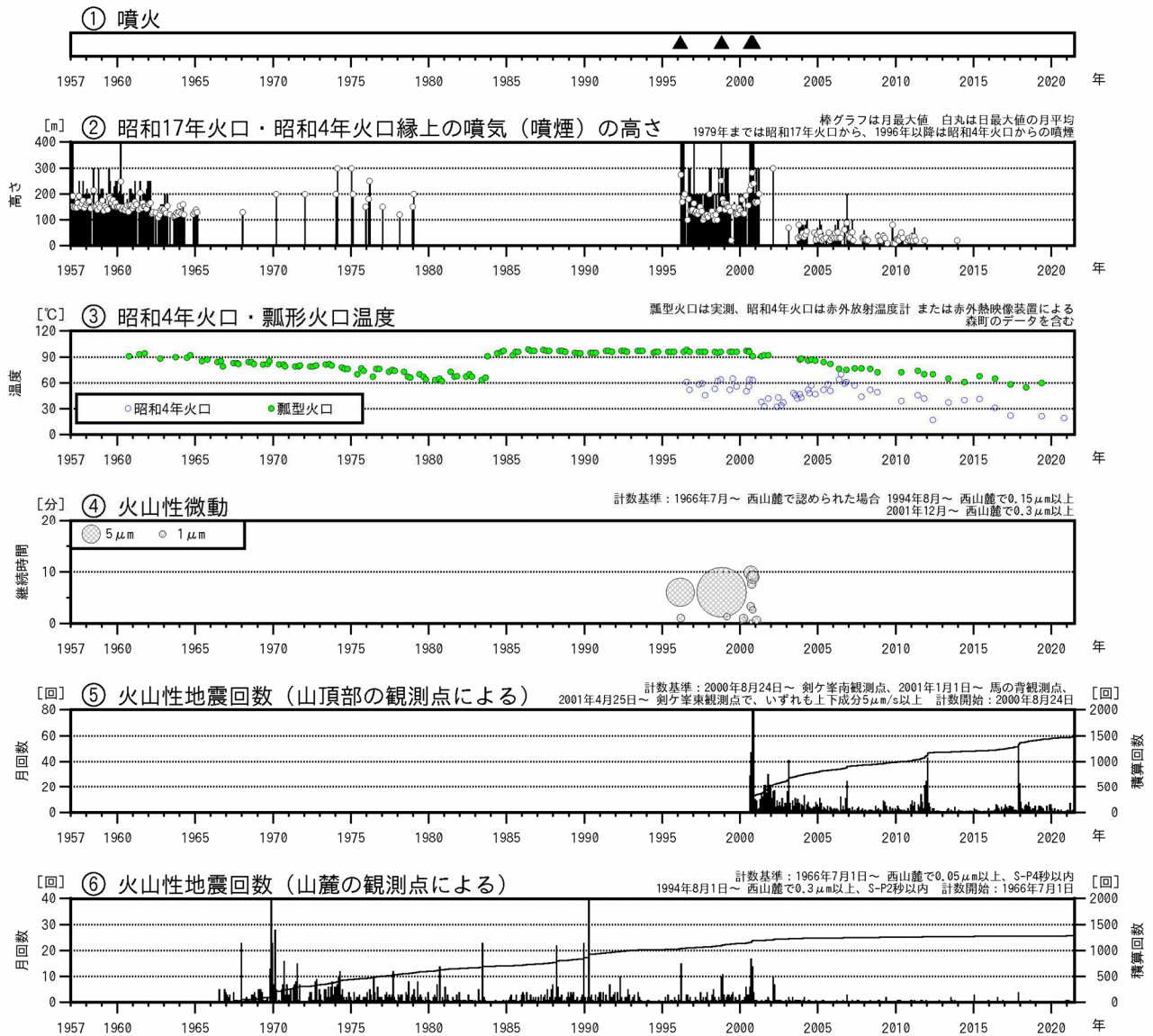


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2021年6月）

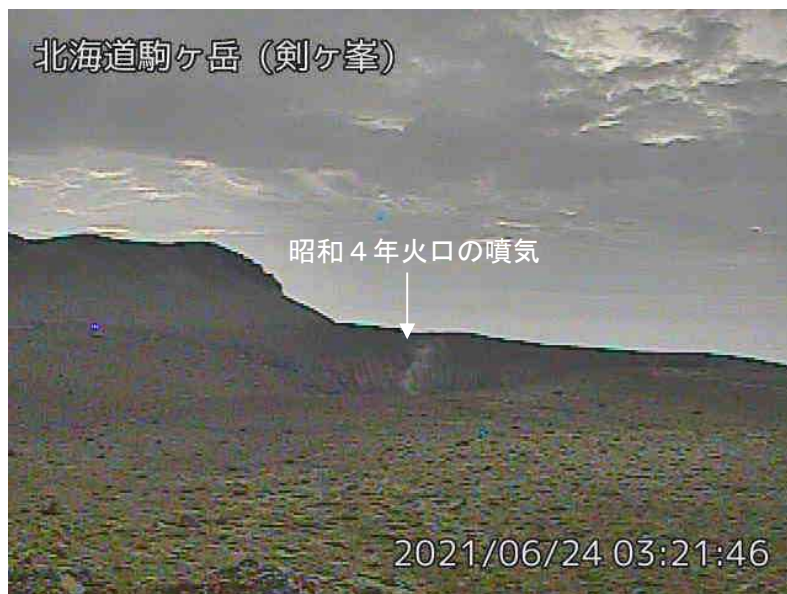


図2 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た昭和4年火口周辺の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

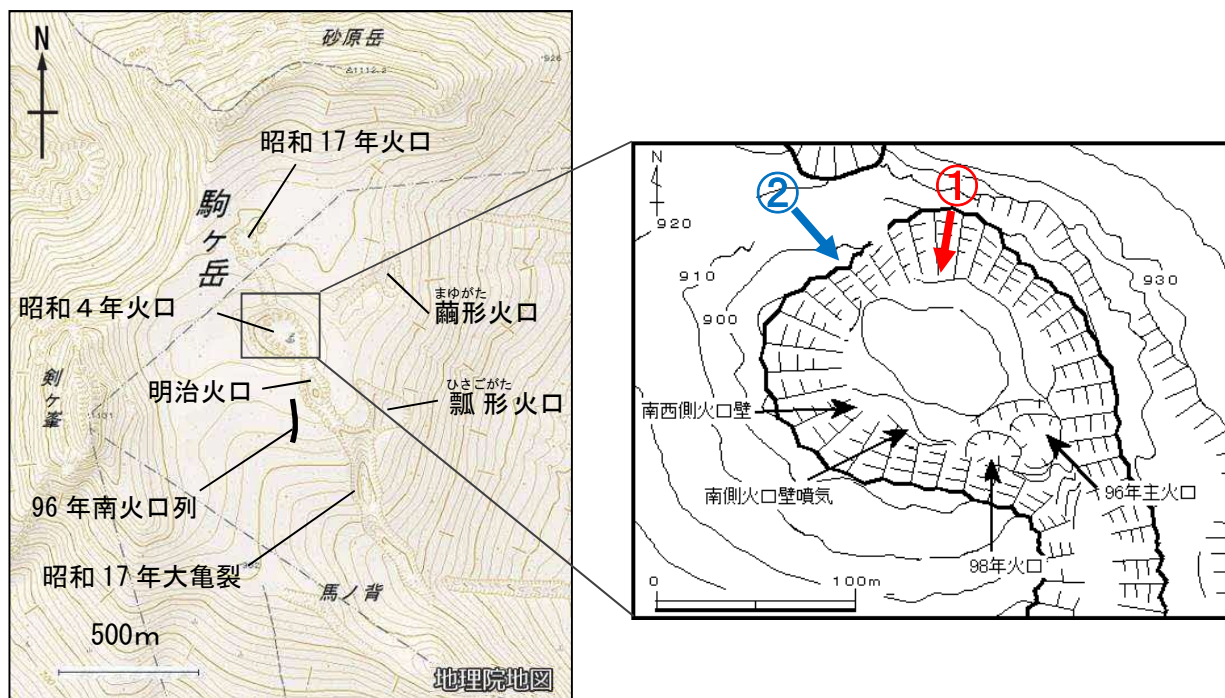


図3 北海道駒ヶ岳 火口周辺図及び写真の撮影方向（赤矢印は現地調査、青矢印は上空からの観測）

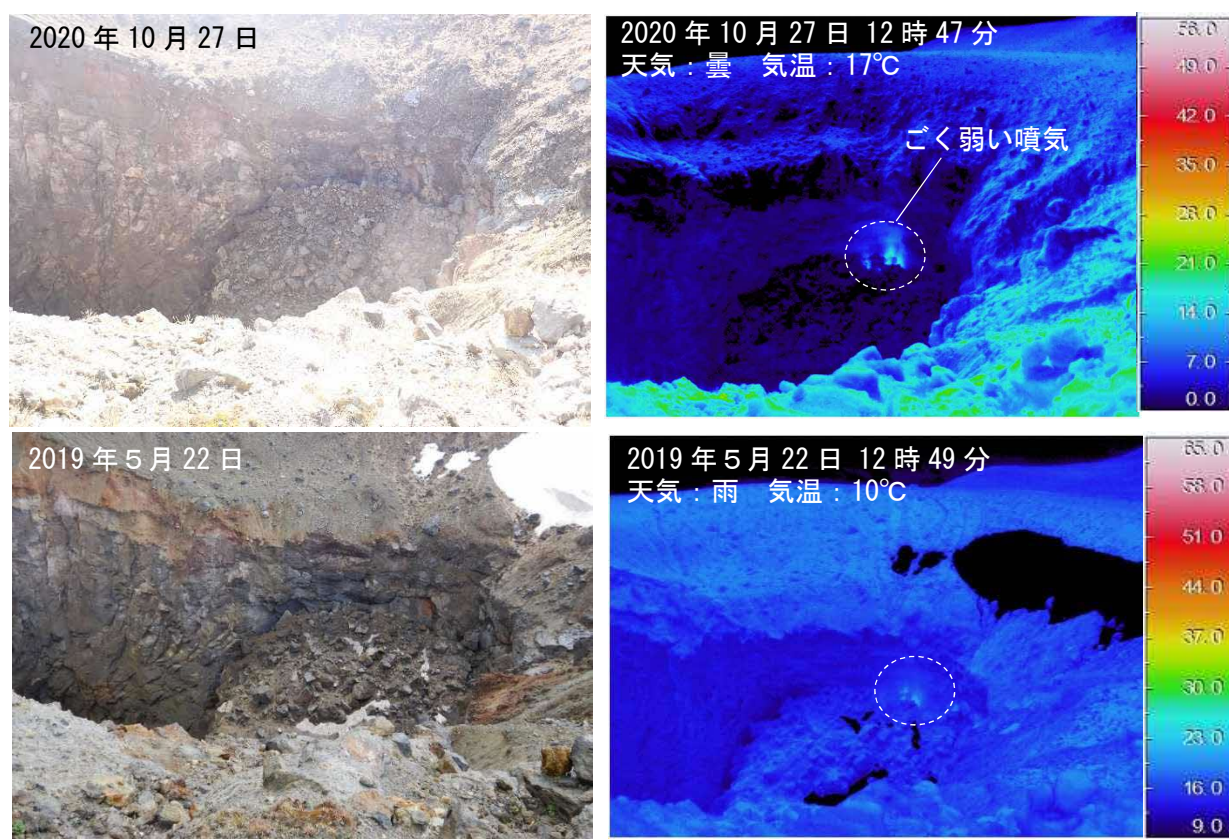


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口内の地表面温度分布 北側（図3の①）から撮影

- ・昭和4年火口内でごく弱い噴気が認められました。現地調査で噴気が認められたのは2017年以来ですが、山頂に設置した監視カメラでは時折観測されています。前回（2019年5月22日）と比べて、地表面温度分布（白色破線部）に特段の変化は認められませんでした。



図5 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の状況 北西側上空(図3の②)から撮影
・昭和4年火口内でごく弱い噴気(破線円内)が確認されましたが、それ以外には特段の変化は認められませんでした。

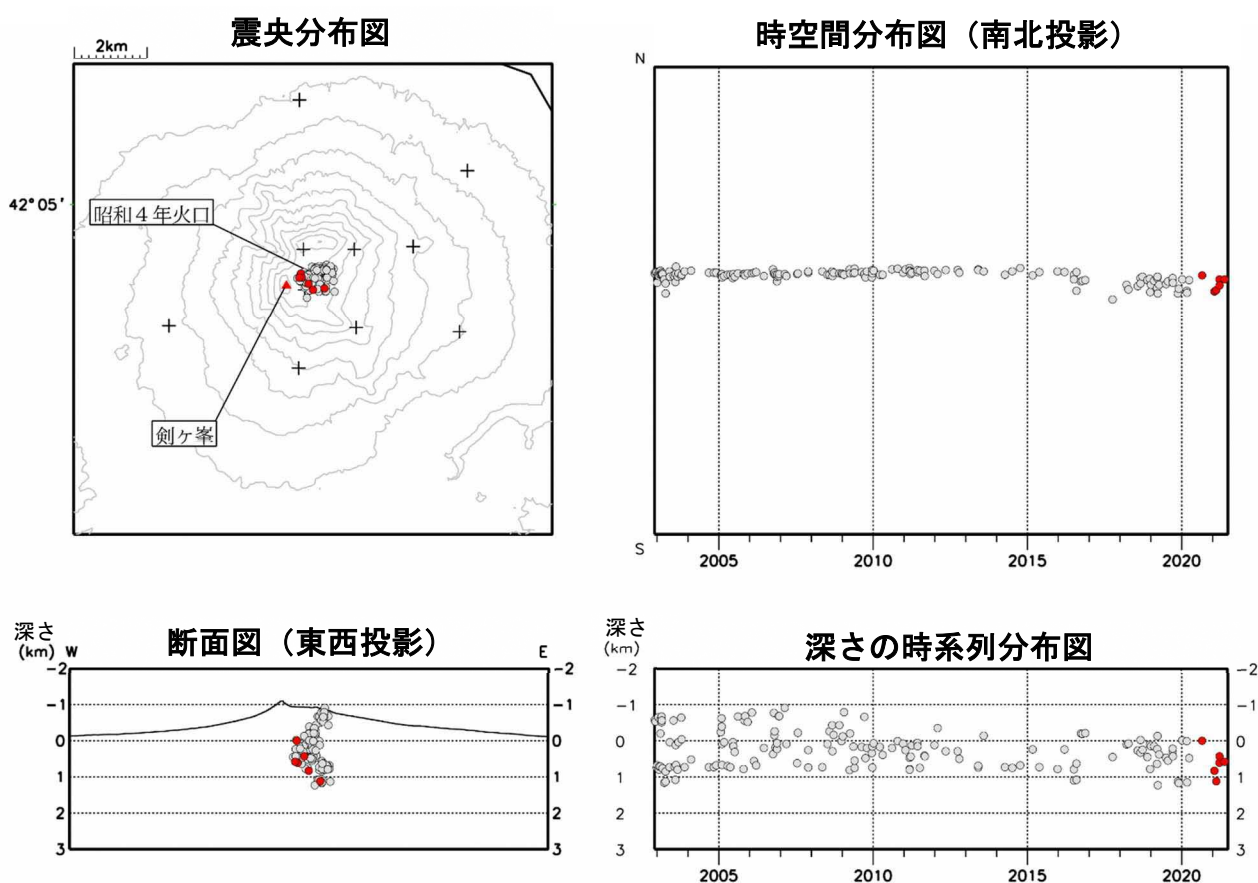


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布(2002年12月～2021年6月)
●印: 2002年12月～2020年6月の震源 ●印: 2020年7月～2021年6月の震源
+印: 地震観測点

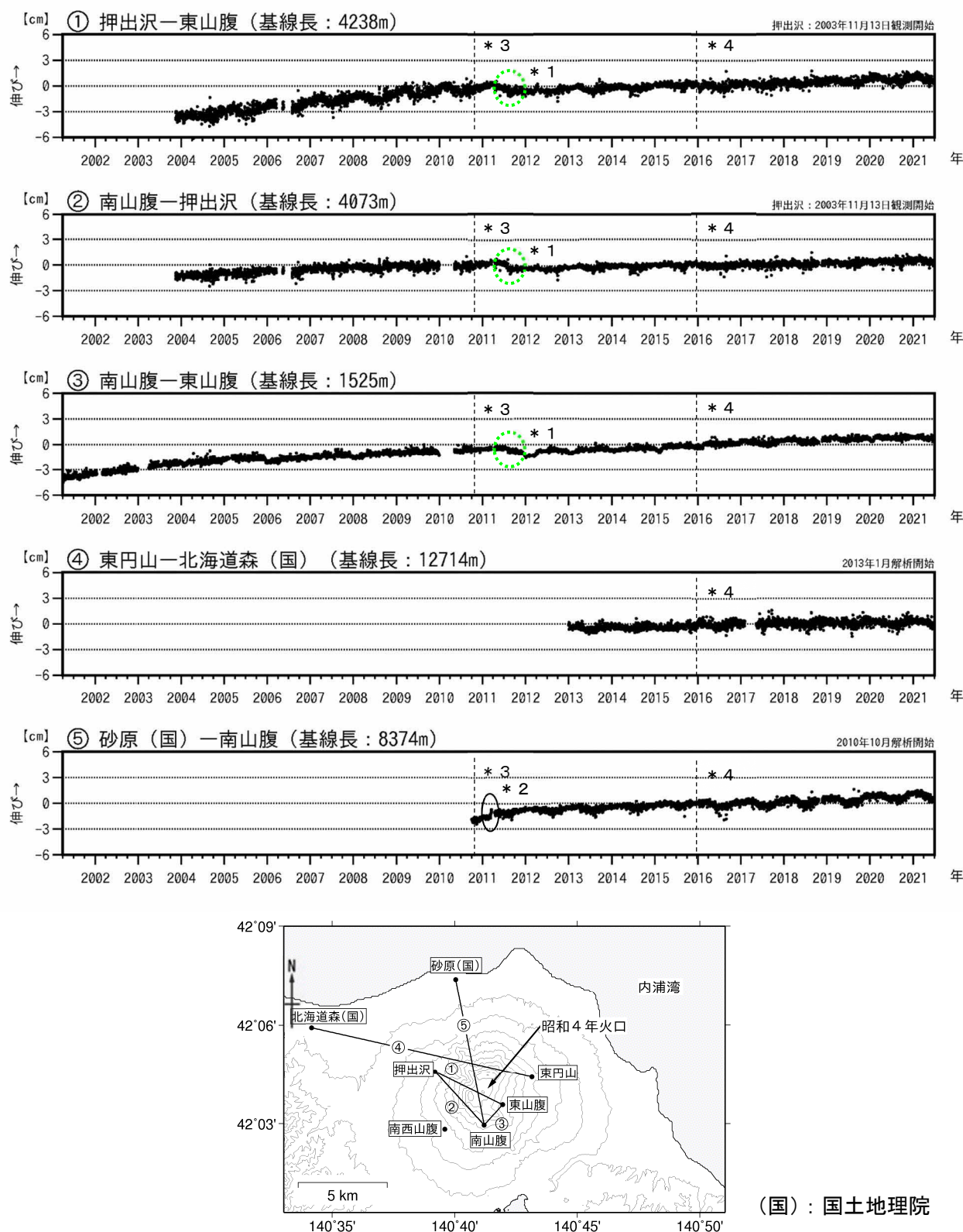


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2021年6月）及び観測点配置図
 グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
 グラフの空白部分は欠測を示します。
 グラフ①～③の緑点線円内の変動（*1）は、機器更新によるものです。
 グラフ⑤の黒楕円内の変動（*2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
 2010年10月（*3）及び2016年1月（*4）に解析方法を変更しています。

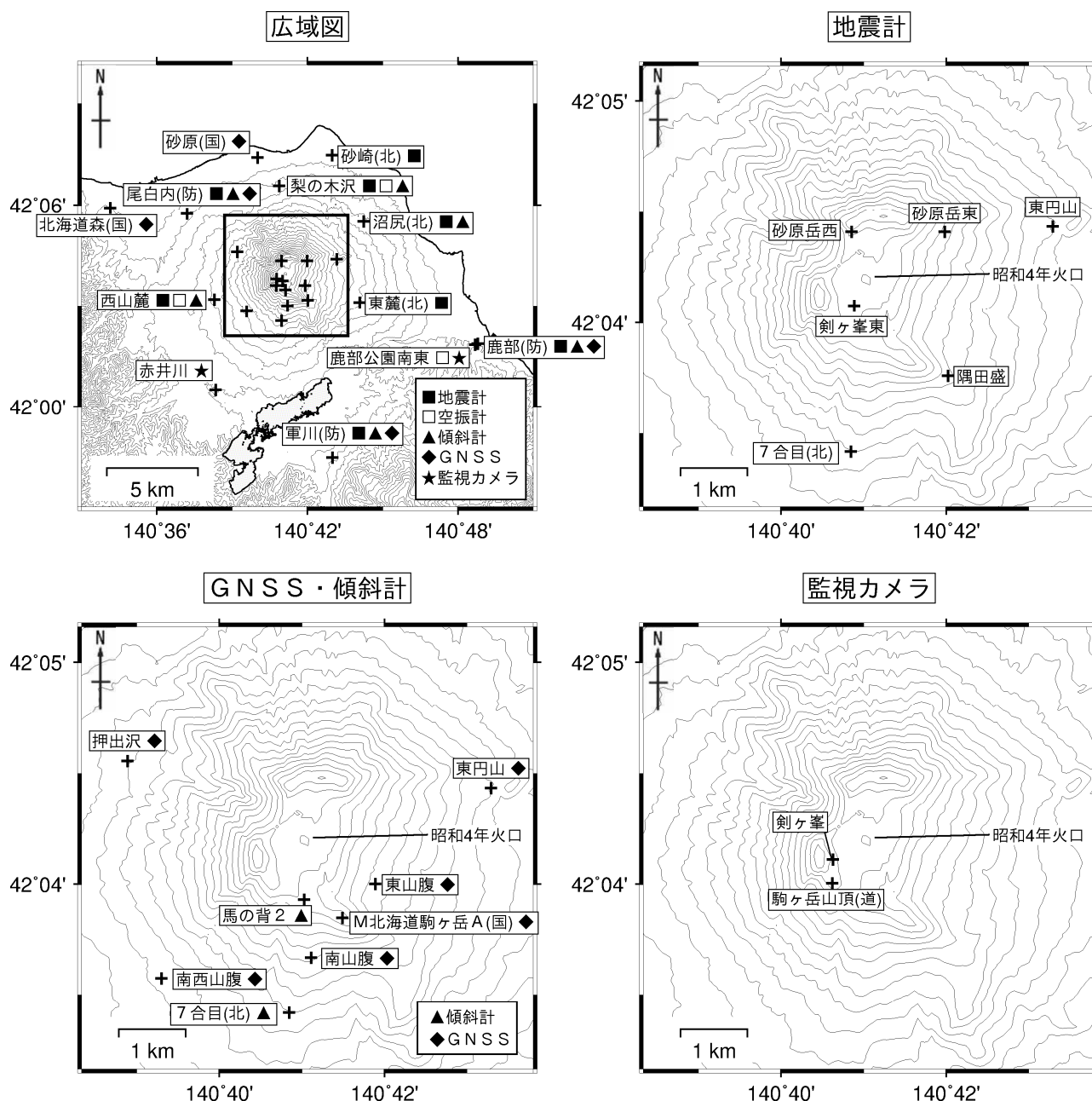


図8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道